



いなほ

稲積神社社報

第41号

平成26年 大祭号





所 感

宮 司 根 津 泰 昇

今年はずちで冬季オリンピックが開催され、日本は幾つものメダルが取れるか注目の選手に期待がかかりました。期待通りにメダルに輝いた選手、反面報道ではあまり注目視されなかった選手が大活躍した競技には、テレビの前に釘付けになりましたことは記憶に新しい事でしょう。

期待に答えられずメダルを逃した選手、さぞかし重い、重いプレッシャーを肩に背負っていたのでしょうか。人生的にはまだまだ若い選手達、その重圧の重さは国民誰しもが理解できることでしょう。

メダルを手中に収めた選手、残念ながら逃した選手達が正々堂々としたスポーツマンシップで戦った証として素晴らしき名言を残してくれました。葛西紀明選手は「僕のジャンプ人生を振り返ってみれば九五パーセント以上負けているのです。でもその悔しさより勝った時の嬉しさの方が数倍も数十倍も大きいです。だからそれを味わいたくて続けているのです」『負けた時の悔

しさよりも、勝った時の嬉しさ』を表現している言葉でしょう。人生にはいろいろな出来事に直面しますが、努力を惜しまず一歩一歩歩めば目的は達成されますよ。の精神が伝わってきます。目標のメダルは逃しましたが、最年長での銀メダル獲得はこの精神から生まれたことでしょう。

二月には観測史上最大の大雪に見舞われました。神社でもどこから雪かきをしようか迷う程でしたが、取り敢えず歩く場所を確保するために雪かきをはじめました。人力ではどうすることもできない状態でした。そんな状況のなか神社とご縁を載っている方々に助けられました。

町内でも町民がこぞつて力を合わせ雪かきをしている光景を目にし「絆」「思いやり」の心を感じました。

神社の祭典のなかに毎朝行われている日供祭（神様にお食事を供える祭り）があります。その祝詞のなかに世の為人の為に奉仕しの文句があります。まさに町の為、近隣の

為通行する人々の為に力を合わせている姿を目にし、明き清き、誠の精神が培われていることを実感した大雪でした。三感四恩と言う格言があり

ます。三感は感謝・感動・涵養。四恩は神恩・親恩・師恩・社会の恩この格言を心にお止頂き日々の生活をお過ごし下さい。



正ノ木祭実行委員長に就任して

祭典実行委員長 藤 本 浩

このたび稲積神社正ノ木祭実行委員会委員長に就任いたしました藤本でございます。

ご承知のようにこの正ノ木祭りは、毎年五月二日～五日までの間に行われる、まさに歴史と伝統がある庶民生活にとけ込んでいる祭典であり、県内はもとより近県からも多くの人達が訪れる有名なお祭りでもあります。

しかしながら近年、社会情勢の変化により、官民あげての暴力団排除運動の高まりから平成二十四年の正ノ木祭りでは、露店等の出店も極端に

少なくなり、遊亀通りの車両通行止の規制も行われず実施したところ、例年の人もなくさみしい祭典となつてしまいました。このことに関しましては、

稲積神社とその外郭団体、太田町を中心とした周辺地域住民、甲府商工会議所をはじめ各種機関、団体等から以前の

正ノ木祭りの復活の声が多く寄せられ、各種会合を開催し検討いたしましたところ、従来どおりの交通規則を警察にお願いし、露店等屋台についても問題のない業者に絞り込むということとなり、昨年は約二百店舗以上が出店し、今までのような賑わいが復活した正ノ木祭りとなったところでもあります。

今年も実行委員会としましては、昨年以上の正ノ木祭りとするために、露店等の出店

はもとより各種イベント等を開催し、多くの人々がつどえる祭典にしたいと思っております。

正ノ木例大祭式次第

- 定刻 手水の儀 参進
- 次 修祓の儀(祓所)
- 次 宮司一拜(拜殿)
- 次 宮司御扉を開く
- 次 神饌を供す
- 次 宮司祝詞を奏す
- 次 献歌(正ノ木さんの歌)
- 次 玉串拜礼
- 次 撤饌
- 次 宮司還御の祝詞を奏す
- 次 遷御
- 次 宮司発御の祝詞を奏す
- 次 宮司一拜
- 次 発御

平成26年度正ノ木例大祭神賑行事(予定)

- 五月二日(金)
- ・ 献木祭 午前10時 甲府商工会議所(境内)
- ・ 前夜祭 午後6時(社殿)
- ・ 飯野のり歌謡ショー 午後7時
- 三日(土)
- ・ 例大祭 午前10時
- ・ 神輿渡御 午前11時～午後四時(宮入 午後三時頃)
- ・ 奉納相撲 午前11時
- ・ パザー 正午(境内) 稲積神社敬神婦人会
- ・ 田城ひばり歌謡ショー 午後四時(境内舞台)
- ・ カラオケ大会 午後6時(境内舞台)
- ・ さるまわし 随時
- 四日(日)
- ・ 二之祭 午前9時
- ◎三味線演奏「平元会」
- ◎三当地アイドル「FUSAKURA」
- ◎ギターデュエット「HARMONIZERS」
- ・ さるまわし 随時
- 五日(祝)
- ・ 三之祭 午前9時
- ◎いしい昭仁「和太鼓トントの会」
- ◎甲府囃子
- ◎ちゃんこの会(童謡)
- ◎ざい いなづみ(バンド)
- ・ 成就祭 午後五時(社殿)
- ◎印は境内舞台 時間未定

根津宮司浄階・一級授与並びに 総代会規程表彰祝賀会開催

根津宮司が本年三月一日付で浄階並びに一級が授与されました。この朗報を受け小尾武・齋藤茂責任役員を始め総代会が発起人となり祝賀会が四月三日に開催されました。開会に続き飯田参事より経過報告と詳細が説明されました。神職資格には階位と身分があり、階位は浄階、明階、正階、権正階、直階の五つの階位があります。浄階以外は高等教育、専門教育または神職養成研修で階位が取得できます。浄階は神職の最高位で長年斯会に貢献された者に与えられる名誉階位です。階位の名称は神道で徳目とする「浄明正直」浄く明るく正しく直くからとられたものです。身分には特級、一級、二級上、二級、三級、四級の六つがあり、初任は三級若しくは四級から始まり、貢献度により二級上までは昇進します。一級は浄階が授与された後、身分選考委員会に於いて授与されますとの説明がありました。



望月元副庁長 祝舞を披露

各支部より推薦され、神社庁表彰委員会に於いて審議し理事会の承認を経て決定する旨が報告されました。宮司より謝辞があり、先代宮司の厳しい奉務心得が基盤になった事と、多くの神社関係者と長きに渡り共に歩んできた事がこの度の授与になった事の感謝の辞がありました。総代会規程表彰者五味隆彦様・瀧沢参三様・志村礼二様・橋田久志様を代表して「いなほ会」の橋田久志様より、裏方の奉仕しか出来なかったけどこの表彰を機に関係者と共に努力していきたい辞が述べられました。乾杯の後懇親を深め宮司、表彰者を祝い合い祝賀会を終えました。

私が最初に稲積神社甲府伊勢講千社詣の旅に参加したのは平成六年十月の青森ねぶた館、十和田湖、恐山の旅行でした。十和田湖を後にフェリーに乗るために蟹田に到着したところフェリーはすでに出航、次の便まで二時間付近の散策等で時間をつぶし、脇野沢に向け出航夜七時三十分頃に葉研温泉のホテルに入った事を思い出しました。その後平成七年より世話人を受け今日までできました。その後北海道から沖縄まで全国を旅行し楽しい思い出がたくさん出来ました。特に印象に残っているのが平成二十年の二泊三日の「淡路島、小豆島」の旅です。初日の淡路島北淡震災記念公園の「野島断層保存館」の資料、展示物等を目にして改めて阪神淡路大震災を再認識をしました。その後日程をこなし、大部港か



甲府伊勢講講元に就任して
私と伊勢講
甲府伊勢講講元 小野 忠

らフェリーで小豆島を後に甲府への帰路につきましたが、名神高速道走行中、隣の妻の具合が悪くなり桂川PAより救急車にて京都の病院に搬送され検査が行われ無事異常なしと翌日皆さんより一日遅く帰甲となりました。平成二十五年は第六十二回式年遷宮参拝新穀感謝祭参列と京都北野天満宮参拝旅行に参加しました。第六十一回第六十二回と式年遷宮を経験しましたが三回目は疑問です。伊勢講は回をかさね今年で四十九回を数えます。講元も私で六代目になりました。諸先輩の足元にもおよびませんが頑張つてやっています。今年は新潟白山神社、北方文化館、宿泊は「月岡温泉華鳳」、弥彦神社菊まつり等、きつと満足いく旅を楽しみたいだけだと思いますので、大勢の方々の参加をお待ちしています。

平成26年 第49回 伊勢講旅程表 旅費：33,000円

月日曜	行 程	備考・宿泊
10/29 (水)	甲府各地 —— (中央道・長野道) —— 白山神社 [新潟市内] —— ◆正式参拝 ◆和食の昼食 ◆豪農「伊藤邸」見学 信濃川 北方文化資料館 —— 月岡温泉 [泊]	【月岡温泉】 白玉の湯 華 鳳 新発田市月岡温泉 TEL:0254-32-1515
10/30 (木)	月岡温泉 —— (北陸道) —— 弥彦神社 [菊まつり鑑賞] —— 寺泊 山六水産 ◆正式参拝 ◆海鮮昼食・おみやげ (北陸道・上越道・長野道・中央道) —— 甲府各地 [着]	

年中行事

節分祭

平成二十六年二月四日(火・大安・初牛)の立春を迎える
と「甲午(きのえうま)・四
緑木星(しろくもくせい)」
という年がいよいよ始まりま
す。

その前日は「節分の日」。
古来より悪霊退散(鬼退治)
として各家庭で行われている
日本の伝統行事です。

神社仏閣では、年の節目で
ある「節分の日」に神様の御
前において「厄除祈願・除災
招福祈願」を行っております。

当社でも古来よりの慣例
にならって、午後五時よりの
「節分祭」において、年男
女(今年の干支午年生まれの
男女)・厄年の方・還暦の方々
のお祓いを行い、景品クジ付
の豆や菓子類を一般参拝者へ
撒いてもらいました。



また、今
年は御神木
前の灯籠が
奉納されま
したので「灯
籠奉納奉告
祭」も行わ
れ、老若男
女多数詣で
て賑わいま

した。
※節分祭に都合のつかなかっ
た厄年の方は、昇殿祈願とし
て随時受け付けております。

祈年祭



二月十七
日には全国
の神社で春
の農作業の
はじまりに
豊穰を祈つ
て祭りが行
われます。

これを「祈
年祭(きね
んさい、としごいのまつり)」
といいます。

当社社は、五穀豊穰で有名
なお稲荷さんが祀られていま
すので、毎年丁寧に斎行され
ています。

祈年祭とは
二月十七日におこなわれる、
全国神社でも最も重要なまつ
りの一つとされています。

「とし」は稲の穂りの意味
で、春の初めに当たるこの時
期、その年の五穀豊穰、産業
の発展、国家・国民の繁栄を
祈る祭典で、十一月の新嘗祭
とは対になる形で、古くから
重要な祭祀とされてきました。

祈年祭は、改暦以前は毎年
二月四日に執り行われていま

したが、改暦後は、二月十七
日に斎行されるようになりま
した。宮中や伊勢神宮をはじめ
、全国神社で丁寧ににおこな
われていきます。

初午祭

二月四日初午祭が斎行され
た。

初午祭は二月の最初の午の
日に稲荷の神社で行われる祭
りである。稲荷の神(宇迦御
霊神)が、全国の稲荷神社の
総本社、伏見稲荷大社の稲荷
山に和同四年二月十一日(西
暦七一年)降臨されたのが、
初午の日であったことから、
全国の稲荷神社で行われる祭
りであるが、二月の二回目の
午の日を「二の午」、三回目
の午の日を「三の午」と言い、
これらの日にも祭が行われる
こともあり、稲荷の神と農耕



民族である
日本人の関
係から、その
地方ごとの
習俗と結び
つき、二
の午もしく
は三の午の
み祭を行う
所もある。

針供養祭

二月八日針供養祭が行われ
たが、この日は二月の最初の
大雪の日であり前日より準備
していた針供養塔で行われず、
神社本殿で行われた。

いつもなら、日本和裁士会
などの方々も参列されて行わ
れるが、この大雪の為、家か
らもでてこれず、小尾責任役
員様の参列のみで行われた。

針供養とは、折れ、曲がり、
錆びなどによって、使えなく
なった縫い針を供養する行事
である。主に淡島神社(粟島
神社)または淡島神を祀る堂
など行われるが、淡島神と言
われる神様は、○小彦名神、
○国産神話の淡島、○住吉の
神の後神、○婆利塞女(はり
さいじょ)、○神功皇后など
いくつかあるが、日本人の物
を大切にしているお祭ではな
いでしょか。



関東甲信の大雪

二月十四日に降り始めた雪
は、十五日の朝目覚めると目
を疑う程の景色となっていま
した。一一四センチという観
測開始以来の最も多い積雪(過
去百年で一番の大雪)で、雪
の影響により道路が寸断され、
孤立する集落もあり、甲府で
もスノーバー、コンビニに商品
が入荷しない状況が何日か続
きました。

三・一一の震災ボランティア
に出向いた方の話によると
瓦礫と雪の違いはあるが、あ
の時と同じ様だ、と：災害が
少ない街「甲府」にも神様が
不意にくる災害への備えの大
切さを教えたのでしょうか。

この大雪で、自衛隊の活動、
住民同士の助け合い、夜中他
県からの除雪作業、若者もス
コップを手に雪掻きしながら
の通勤など日本人のしんと人
との繋がりが、思いやり助け合い
の精神に心暖まりました。

当社社も齋藤建設様、辻緑
化土木様、町内の方々の除雪
長野県富士見町よりトラック
に除雪機械を積
み駆けつけてく
れた名取権備宜
など皆様のご協
力により、参道
を開かれました
こと誠に有難
く、心より感謝
申し上げます。



境内社例祭

猿田彦社例祭

二月十八日に齋行された。

ご祭神の猿田彦命は、「古事記」では猿田毘古神・猿田毘古大神・猿田毘古之男神「日本書紀」では、猿田彦命と記されている。天孫降臨の神話で、邇邇藝命が天降りしようとした時、天の八衢に立って、天孫を先導しようと迎えに来た神であり、その神の名前を尋ねた神が天鈿女命であり、(稲積神社のご祭神、大宮能売命の別命) 稲積神社の神様とも深い関係がある神です。天孫を追案内されたことから、「導きの神」としての神格を持ち、猿田彦命を祀る有名な神社として、三重伊勢市も猿田彦神社・三重県鈴鹿市の樅大神社がある。



甲子社例祭



二月二十三日齋行された。

ご祭神は大国主大神で、甲子は干支の組合せで、一番目であることから吉日とされ、神話で鼠(十二支の子)が大国主大神を助けたことから神使とされ、甲子の日に大国主大神の祭日とされています。又、今ではみられなくなりましたが、江戸時代には大国主大神の別名である大黒様をまつる商家では、甲子の夜、子の刻(十一時〜一時)まで起きていて、大豆・黒豆・二股大根などを供えて、大黒様を祀る、大黒天祭(甲子祭)が行われていた。

天満天神社例祭

三月八日齋行された。

ご祭神は菅原道真公で、公は当代随一の博学者であり、その当時最高の官位、右大臣にまで任ぜられたが、左大臣藤原時平の讒訴により、大宰府へ左遷され、失意のうちに亡くなられた。その後北野天満宮天神の称が贈られ、現代では道真公の博学ぶりから、学問の神様として、受験者の方々から、信仰されています。又、天満天神になで牛がありますが、道真公と牛との関係が深く「道真公が丑年である」「大宰府への左遷時、牛が道真公を泣いて見送った」など牛にまつわる伝承など数多くあり、牛は天神様の神使いとされている。



熊野社例祭



三月八日に齋行された。

ご祭神は、国産み神話の伊邪那岐大神が黄泉の国から帰ってきて、穢れを落した時最後に生まれ落ちた。三貴子(みはしらのうずのみこ) 天照大神・月弓尊・素戔嗚尊の、八岐大蛇退治で有名な、素戔嗚尊です。

平成十二年三月二十六日、

島根県の熊野大社より神魂をお頒ちいただきましたが、熊野大社といえば、和歌山県の熊野三社も有名ですが、この熊野三社の天津宮が島根県の熊野大社とされています。

又、火の発祥の神社として「日本火出初之社」(ひのもとはひぞめのやしろ)とも呼ばれます。

奉納者

☆一金 百萬元

・齋藤建設株式会社
代表取締役 齋藤 茂
☆灯笼奉納者

○豊前医化株式会社
代表取締役会長
豊前多津美

○株式会社ひしわ園
甲府伊勢講講元
小野 忠
○甲府伊勢講副講元
武田 信平
○稲積神社宮司
根津 泰昇

☆灯笼石材工事
○有限会社石坂石材
代表取締役 石坂 正夫



巫女を奉仕して

市ノ瀬 美和

私が稲積神社の巫女としてご奉仕させて頂くようになり六年が経ちました。お仕事を通して滅多にできない貴重な経験をさせて頂いていると常に感じます。巫女の主な仕事は結婚式神事の手伝いやお正月、正ノ木祭での御守・御神札の頒布や神事の手伝いなどがあります。始めたばかりの頃は分からないことが多く、いつも「失敗したらどうしよう」とばかり考え、不安に思っていました。しかし、優しく厳しい先輩方や神社の皆さんのご指導があり自信を持って、楽しく仕事ができるようになっていきました。

様々な仕事を体験していく中で、全ての仕事に共通することがあると気がつきました。それは、おめでたい事柄に関わっているということです。結婚式では新郎新婦様の門出をお祝いし、お正月とお祭りでは地域の人々と一緒にお祝いをします。このように多くの人と喜びを分かち合える機会に恵まれ、幸せを感じながら仕事ができました。日本人では外国から入ってきた文化を工夫して取り入れる、文化の混淆を得意とする民族です。そのため現代では異文化的なイベントが多く行われるようになってきました。私はそれらを見てみると、日本の伝統的文化が廃れてしまうのではないかと感じます。これからは日本文化を大切に、守っていく事が若者の役目だと思います。巫女の仕事をさせて頂き、日本文化の良い所、大切な事を多く学ぶことができました。学んだ事を心に留めてこれからも過ごしていきたいと思います。

沖縄甲斐の塔慰霊祭を終えて

権禰宜 土肥 東 宮

山梨県女子神職会主催により念願でありました沖縄甲斐の塔の慰霊祭（一月二十七日（二十九日）に祭員として奉仕できたことに感激もひとしおでした。

女子神職会としては初めての慰霊祭の旅ということもあり、当初は人数集めにも悩みましたが、山梨県神道雅楽会四名の神職にもご同行いただき三十二名の参加者が集い、出発することが出来ました。

今回は祭具一式を沖縄県護国神社に拝借し、すべての事に対しお世話になり感謝しています。また神饌物は、山梨産の品を選び当時の懐しいお菓子類・煙草等も供しました。

慰霊祭当日二十八日の朝、沖縄本島の具志頭市に建立された甲斐の塔に向かいました。青い空と海に包まれたその地は、今でこそ穏やかに静まり返っていますが、火の海となり傷付き病んでも葉なく、その光景は凄まじく想像するこ

とが出来ない程の激戦地だったのでしょうか。

午前十時からの慰霊祭は女子神職四名の神事。そして、雅楽会の皆様の奉奏により、沖縄県護国神社の巫女さんに舞姫として、御霊慰めの舞を舞っていただきました。尊き命を国の為に捧げられた御霊に対し、国を守る使命に燃えつつも心残りのあつたことを思うと涙する一時でもあり、このような悲劇が再び起こらぬことを祈るのみでした。

初日は、波上宮・沖縄県護国神社の正式参拝、首里城公園。二日目は、ひめゆりの塔、甲斐の塔慰霊祭、おきなわワールド、斎場御嶽。最終日は美ら海水族館と盛り沢山の研修で、参加者の皆様からは満足のお声をいただきました。

この沖縄研修、慰霊祭の第一発案者である、女子神職が病に倒れ、ご一緒出来なかつたことは大変残念でなりませんが、私達の計画で実現でき

るのでしようか、と思った研修旅行がすべてつつが無く終わらせることが出来たのは、神様の御力のお導きだったのだ、と感じています。

今日の日本の平和は、尊き命を国のために捧げられた御英霊の「お国のために」というお気持ちがあったからこそと思います。今生かされている私達に残された使命は、このような戦争体験を風化させることなく、正しく継承していく、戦没者すべての人々に慰霊することを忘れてはいけないと思えました。

そして、今日一日を生かされているのだ、と感謝し、日々を大切に過ごしていくことが御霊の望むところでしょう。しっかりと歩み続けていきたいと心感じた研修旅行でした。



全国につながる青年神職の研修会

権禰宜 根 津 佳 明

第十回稲積神社恵方参りの旅

総代会顧問 丹 澤 正 臣

靖国神社参拝と
国会議事堂見学に
参加して

去る平成二十六年三月六日
七日、北海道札幌市にて「神
道青年全国協議会 平成二十
五年度中央研修会」が、全国
より青年神職四百名以上の参
加により開催された。

「国土と国体を守る」を主
題として、海洋問題研究家の
山田吉彦東海大学教授は「日
本の海を守る」と題し、近隣
諸外国が我が国固有の領土の
領有権を主張する理由として、
周辺海域に眠る豊富な海底資
源や水産資源の存在を挙げた。
環境問題からの視点で国際会
議を行いアピールすることで
近隣諸国の動きを封じ込める

と主張した。
俳優の津川雅彦氏は「日本
の誇り」と題し、東日本大震
災で被災した方々のエピソード
を交えつつ、「我慢」「忍
耐」「礼節」の大切さを説い
た。

ジャーナリストの高大末貴
氏は「対日情報戦に備えよ。
日本の誇りを取り戻そう」と
題し、近隣諸国との歴史認識
問題では「日本への非難は国
を守った英霊への冒瀆」「近
隣諸外国からのネガティブキ
ャンペーンにもかかわらず日
本人が他の諸外国から好意的
に見られているのは先人の働
きがあればこそ」「今こそ八
百万の神々を祀る日本人の出
番」と講演された。

今回の研修会は「領土、領
海が脅威にさらされてる安全
保障問題」を軸に、「先人が
命がけて守ってきた国土と国
体、伝えられてきた日本人と
しての志と美德を日本国民の
意識に甦らせる」ことを目的
として、我々青年神職が学び、
意識を高めるための良い機会
であった。



平成二十六年二月二十三、
二十四日(日月)で行われま
した。

恵方とはその年の正月飾り
を七日、正月七草の日に各家
の敷地内の今年に東北東の方
位に東ねて送ります。そして
十四日、どんど焼でお焚きあ
げし今年の安泰をお祈りする
のが東北東です。

山梨は災害の少ないところ、
八十二人がご参加いただきました。
山梨は災害の少ないところ
だと思って居りましたが、二
月十六、十七日の観測史上初
という豪雪に見舞われ誰もが
被害者になり得る事を痛感せ
ざるを得ませんでした。あの
大雪ではと案じていましたが
二日前に中央道が開通し旅行
に行くことが出来ました。

東北東と言えは三年前三月
十一日あの大震災に見舞われ
た方面で、いまだに大変ご苦
労を強いられています。

英城県出雲大社常陸分社(震
災の年に当神社の権禰宜根津
佳明君が片づけの支援に行っ
てきた神社。)また水戸の偕
楽園常磐神社(水戸光圀公を
お祭りしている神社)を正式
参拝し那珂湊漁港で昼食、小
名浜海産物ショップング又宿
はスパリゾートハワイアンズ。
ここも震災あったところだ
が皆さんの頑張りにより再開
した所でした。その一生懸命
の姿を見ますと心の熱くなる
思いがしました。

靖国神社参拝には県選出の
自民党議員の先生方も御参集
頂き英霊の御霊に参拝致しま
した。

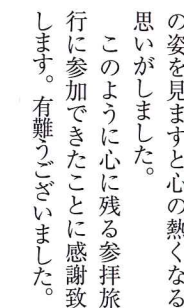
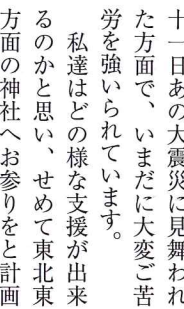
私達はどの様な支援が出来
るのかと思ひ、せめて東北東
方面の神社へお参りをと計画

このように心に残る参拝旅
行に参加できたことに感謝致
します。有難うございました。

後には守衛さんのご案内で
国会議事堂を見学致しました。
先の大戦では二百万人の戦
死者、百万人の国民が犠牲に
なりました。二度とあのよう
な戦争を
世界のど
こからで
も起こさ
ないよう
願う気持
ちで帰路
に就きま
した。



このように心に残る参拝旅
行に参加できたことに感謝致
します。有難うございました。



月始祭

毎月一日の午前十時より斎行しております。何方でもご参列いただけます。(初穂料千円以上)

月始祭の祈願は前月の生活に感謝し、当月の生活安定を自らが願い、五体を清めて生氣興隆のご神徳を授かる為の神事です。

参列者全員で大祓詞を奏上(神様に読み上げる)し前月の罪、穢れを祓います。又神恩に感謝の誠を捧げる神感謝詞も全員で奏上いたします。後に宮司により国家安泰と皇室の弥栄を祈念申し上げ、国民又崇敬者が健康で日常生活が営まれますよう祈願申し上げます。最後に稲積神社崇敬会員の誕生祭祝詞(その月に誕生を迎える会員が平安安泰に一年が過ぎられたことへの感謝と、これからの一年にご神縁が授かりつつが無く過ごせるよう願う祝詞)が奏上される。

お下がりとして月毎の色ご幣(その月の神様が宿っているご幣)・月毎の神札・神様にお供えした神米・お清めと

して土地、車、家等を清める切麻(きりぬさ)が授与されます。

月始祭に参列し多くのご神縁が授かりますことを願っております。

毎月一日 十時斎行

月毎色御幣



7月御幣



6月御幣



12月御幣



11月御幣



10月御幣



9月御幣



8月御幣

星除け祈願

星除けとはその年に凶作用を受ける星にある方が、神のご神力ににすぎり祓清める祈願です。

次の方が凶作用を受ける方です。

★暗剣殺を受ける三碧木星の方
昭和九・十八・二十七・

三十六・四十五・五十四・六十三年生れの方

★歳破、衰退運を受ける九紫火星の方
昭和三・十二・二十一・

三十・三十九・四十八・五十七・平成三年生れの方

★変動運を受ける四緑木星の方
昭和八・十七・二十六・

三十五・四十四・五十三・六十二年生れの方

金比羅神社前の江戸時代の盤水復活

「盤水洗心水(ほんすいせんすい)」の意味

「盤水(はんすい)」とは：「箸よく盤水(はんすい)を回す」という言葉があります。

「盤水」とは盤(水受け)のなかの水のこと。

最初、箸一本で盤水を回しても箸しか回りません。

根気よく熱心に回し続けていきますと、周囲の水が少しずつ回るようになります。

そして盤水全部が大きな渦になって回るようになります。

そのことから「小さな努力も続けると、大きな力になる。決してあきらめてはいけない」という教えとなっております。

「努力しても成功するとは限らない。しかし成功した人は必ず努力している。」

「洗心水」とは：「水に流す」という言葉があります。

人は常日頃の生活の中で良い出来事ばかり起こるわけではありません。

成功に向かって努力をしている中で「つまずくこと」や「挫折する」ことも多々あります。しかし「後を振り返る」ばかりでは先には進めません。

自分のわだかまりを「水に流す」ことをして希望の道へ進むことが肝心です。

「盤水洗心水」の活用方法

- ① 神前でお祓いた「水に溶ける紙」へお名前・ご住所・水へ流したいこと・努力を続けること、などを記入する。
- ② 御神水流れる「水受け」へ書いた紙を浮かべる。
- ③ 備え付けである「箸(ハシ)」で心を込めて渦をつくるようにかき混ぜる。
- ④ 紙が溶けたら、ご神前へ進み参拝する。

お正月から見ていると多くの方が「盤水洗心水」をご利用しています。成功へ向かい頑張っている方、希望へ向かい努力している方。その方々の後押しが出来るればと願っています。

皆様がお祈り致します。皆様がお祈り致します。

